

【第 26 回パラグアイ便り】



『 眞子内親王殿下のパラグアイご訪問 — 当地主要新聞紙面の賑わい 』

前日までの長雨が嘘のような雲一つない晴天となった9月7日朝にアスンシオン国際空港に到着された眞子内親王殿下は、5カ所の移住地訪問をふくむ8日間、陸路約 1100 キロにも及ぶパラグアイの旅を、終始好天と歓迎の波に迎えられながら恙なく終えられ、14日朝イタイプダム管理棟内での荣誉礼を経て無事ブラジル側に出国されました。



(写真：ご到着翌日の主要3紙一左から“abc コロール”、“ウルティマ・オラ (UH)”、“ラ・ナシオン” — それぞれの第一面。掲載写真は『独立の家』でのご献花)

ご滞在期間中に眞子内親王殿下は、行く先々で、日本人移住者には苦難の歴史に対するお労を、また次世代を担う日系青年達には将来への励ましと期待の念を届けられ、それと同時にパラグアイ社会に対しては移住者を温かく受け入れた好意への感謝の思いをお伝えになられました。

内親王殿下ご訪問の当国内での反響は当初の予想をはるかに超えて、メディアをはじめ当国全体が敬愛の念に充ち満ちた“Princesa Mako”眞子様フィーバーで包まれました。

今回の【パラグアイ便り】では、当地主要全国紙3紙 — “abc コロール”、“ウルティマ・オラ(UH)”、“ラ・ナシオン” — の紙面を紹介しながら、ご日程をたどってみることにします。

○ ご到着当日(9月7日)の模様

日本人移住 80 周年式典委員会幹部や子供達が出迎える中、アスンシオン国際空港にご到着、栄誉礼による歓迎式典に臨まれました。その日の午後は、

まず文化大臣の先導で『独立の家』でご献花、ご視察され、次に観光大臣の案内で『観光情報センター』をご訪問、パラグアイの伝統工芸であるニャンドウティと精密銀細工の制作実演をご覧になりました。

(写真：空港での出迎え風景と、当日午後の『独立の家』と『観光情報センター』での制作実演のご視察)



○ 翌8日“パラグアイ日本・人造りセンター”でのアスンシオン市長主催歓迎会にご出席、そこで有志校生徒達の発表会を楽しまれ、その後、民族博物館・美術館である『泥博物館』をご視察されました。

当日の夜は、カルテス大統領公邸での表敬と夕食会に臨まれました。大統領は、『今回のご訪問はパラグアイへの最高の贈り物です』とその喜びを表現し、大統領令嬢二人を交えた家族的で和やかな、夕食会となりました。



(写真：上は公邸における大統領への表敬の模様。左は『日パ・人造りセンター』での市長主催歓迎会とアスンシオン市長からの名誉市民賞贈呈。)

○ 内親王殿下は、9 日より日本人移住者の方々とご引見を始められ、ご帰国されるまで7回に亘り、日系一世のご高齢者から日本人会青年部の若手まで、世代を超えた 300 名近い方にお言葉かけられました。内親王殿下の丁寧で心こもったお話ぶりに、人それぞれ感涙にむせんだり、今の幸せを報告したり、将来の夢を語ったり、とても和やかで温かい空気が会場を包んでいました。



(写真：移住者の方々のご引見の様様。写真右の修道女は 1967 年のイグアス聖霊幼稚園への赴任以来日系子女の教育に携わってきたシスター山田。写真右下は祝賀式典会場での晴れ着姿の日系人若手芸術家の展覧会)

○ 10 日朝はアスンシオン市をご出発され、東南約 130 キロの距離に位置し、80 年前に日本人最初の入植地となったラ・コルメナ市をご訪問されました。内親王殿下は、10 年前の 70 周年にご来訪された秋篠宮殿下の記念プレートが埋め込まれた慰霊碑にご献花され、その後『移住者の母』と慕われたミランダ女史の立像をご視察、移住一世の方々のご引見や昼食会などで、この地でくつろいだひとときを過ごされました。



(写真：ラ・コルメナ市慰霊碑へのご献花と 80 年前に移住した一世の方々のご引見。写真右下は 80 周年記念庭園のご視察。)

○ ご滞在5日目の9月 11 日は、戦後移住地となるイタプア県のチャベス移住地(1953 年)とラパス移住地(1955 年)に足を運ばれ、それぞれ日本人会敷地にある開館、学校、農協などをご視察されました。夕方は宿泊地エンカルナシオン市の河川岸を散歩され、また戦後移住者の多くがパラグアイでの第一歩を踏みしめた移住者

収容施設の跡地を活用したる広大なエンカルナシオン日本人会をご訪問され、日本人学校児童とのお遊戯を楽しまれました。夜はイタプア県知事主催の夕食会に臨まれました。

Mako emociona a inmigrantes de Federico Chaves y admira la producción de La Paz



Un ambiente de fiesta se vivió ayer en la colonia japonesa Federico Chaves y en la ciudad de La Paz, departamento de Itapúa, con la visita de la princesa Mako del Japón, quien se reunió con los pioneros inmigrantes que llegaron a la zona en 1953. Su Alteza saludó a niños y admiró la producción local.

Los primeros en Itapúa
El primer día que se celebró en la ciudad de Itapúa, Paraguay, el 19 de mayo de 1953, cuando se fundó la ciudad, fue un día muy especial para los inmigrantes japoneses que llegaron a la zona en 1953. La princesa Mako del Japón visitó la ciudad y admiró la producción local.

Tributo a pioneros
La princesa Mako del Japón visitó la ciudad de Itapúa, Paraguay, el 19 de mayo de 1953, cuando se fundó la ciudad. Su Alteza saludó a los pioneros inmigrantes que llegaron a la zona en 1953.

La princesa Mako es Huésped Ilustre en Itapúa

La agenda de hoy incluye visitas a la Ruinas Jesuíticas y el distrito de Pirapó.



La integración japonesa en esta zona data de 1953, cuando llegaron los primeros inmigrantes japoneses.



(写真左：ラパス移住地での日本語学校生徒による歌の披露とラパス農協経営スーパーのご視察。写真上はイタプア県知事による名誉訪問者賞授与式)

○ 翌 12 日はエンカルナシオン市をご出発、17 世紀にイエズス会の宣教師が築いたトリニダ伝道所の遺跡を観光大臣やイタプア県知事とともにご視察され、その後ピラポ移住地に移動されました。ピラポ移住地では日本人会内の相撲場で小学生相撲をご観覧、イタプア県在住4日本人会主催の合同歓迎昼食会にご出席されました。当日夜は、最終滞在地であるエステ市に向かわれました。

ピラポ移住地では日本人会内の相撲場で小学生相撲をご観覧、イタプア県在住4日本人会主催の合同歓迎昼食会にご出席されました。当日夜は、最終滞在地であるエステ市に向かわれました。



Mako admira las Reducciones Jesuíticas y venera a ancianos inmigrantes de Pirapó

La princesa Mako del Japón admiró ayer los tallados en piedra realizados por los nativos de la Reducción Jesuítica de Trinidad y se interesó por la música del coro indígena de Trinidad.



Una histórica visita imperial enlazó varias culturas milenarias en Itapúa
La princesa Mako del Japón visitó la ciudad de Itapúa, Paraguay, el 19 de mayo de 1953, cuando se fundó la ciudad. Su Alteza saludó a los pioneros inmigrantes que llegaron a la zona en 1953.

(写真上左から、トリニダ遺跡での民族音楽による歓迎風景、ピラポ移住地におけるイタプア県4日本人会合同歓迎会と相撲場における小学生相撲の様様。)

○ ご公務の最終日となった7日目の9月 13 日は、イグアス移住地を訪問されました。同移住地は日本政府直轄移住地として1961年に入植開始、その後の日本の高度経済成長とともに移住者が激減してパラグアイ最後の移住地となりました。内親王殿下はご到着されてまずイグアス中央公園に立ち寄られ、38年前の1978年に当時の皇太子同妃両殿下がご訪問記念に植樹されたラパッチョと桜の木をご覧になりました。引き続き移住史料館『匠』センターで移住の往時を偲ばれ、パラグアイご訪問最後のご引見と昼食会を済まされて、移住関連の日程を終えられました。

午後、ニヤンドウティで作られた美しい白のお洋服と銀細工のネックレスをお召しになった内親王殿下は、世界最大級のイタイプ・水力発電ダムをご訪問、ダム公団総裁の案内でダム施設の奥深い内部を興味深くご覧になり、最後にダム公団が管理運営する先住民族博物館をご訪問されました。



(写真：イグアス移住地で熱烈な歓迎風景とイタイプ水力発電ダムのご視察)

○ 翌9月14日朝、エステ市をご出発された内親王殿下は再度イタイプ・ダムに向かわれ、管理棟内で荣誉礼によるお別れ式を受けられ、床の国境ラインを超えてパラグアイを離れられました。以上、現地主要新聞記事の一部をご紹介しましたが、TVでもこれに劣らない盛り上がりでした。もちろん、その内容はいずれも極めて敬意と親愛に満ちたものであったことは言うまでもありません。

(上田善久 2016年9月 大使館)